

市ヶ谷 図書館 だより

Vol.4.2023.4

法政大学図書館

本棚紹介／ライサポ
短編小説／スキマ時間
移動時間に読める本
年間活動記録／電子
ブック活用術

Edited by ICHIGAYA Library
Supporters

ライブラリーサポーターメンバーの本棚紹介



基本図書館で借りる派なので、あまり多くはありません。2回以上借りて読んだ本は買う！というマイルールを設けています。

ここには写っていませんが、ハリーポッターシリーズが本棚を一段まるごと占領しています(笑)もっとコンパクトにならないものか...

・西の魔女が死んだ(梨木香歩)

この本で梨木さんファンになりました！お洒落な田舎暮らし、いいですね～

ちなみに、梨木さんの文体にハマった方は、小川洋子さんや川上弘美さんの本も読んでみてください！

・獣の奏者(上橋菜穂子)

児童書だからと侮ることなかれ...トンドモ設定のファンタジーですが、政治的から恋愛まで、多くの要素が組み合わさった傑作です。

大人になってから読み返すと、前は気づけなかったことが見えてくるのが嬉しい！

・チョコレート・アンダーグラウンド(アレックス・シアラー)

チョコレートを奪われた子供たちの革命の物語。これ聞いただけでもう読みたくなりますよね！

読めば熱い気持ちがたぎってきます！ちなみに、翻訳は本学社会学部教授の金原瑞人さんです。



趣味で集めた本(左・中央)と文学部の授業で使用した本(右)が主にあります。この中からおすすめをご紹介します！

①名のないシシャ (山田悠介著)

人の寿命が分かり、自身の寿命を分け与えることのできる使者の物語。姿はずっと子供のまま。出会う人々と寿命と運命の関係が複雑に絡みあう。衝撃のラストにハンカチ必須です。

山田悠介さんはジャンル問わず多くの作品を書いており、中高生に大人気です。読み終えた後に考えさせられるテーマが多いように思います。ぜひ、色んな作品を読んでみてください！

②童話ってホントは残酷 (三浦 佑之)

皆さんが知る童話の真実が分かります。「赤ずきん」「シンデレラ」「一寸法師」など有名なお話の原典は恐ろしいものだった！？ゾワッとする感覚が好きな方必見です！

ライサポ短編小説

『告白』

一ヶ月前、ここで始まり一週間で終わった。

あの人に告白した小さな公園にいる。あの人、と言ってしまふのは振られたからではない。付き合ったと言っているのか分からないからだ。あの人とは文芸サークルで出会った。サークル室はいつもカタカタとキーボードを打つ音だけが複数響き渡っている。初めてサークル見学に訪れたときゾツとした。隅に寝転んでいる人がいたのだ、そう、これがあの人。涅槃像を後ろから見ているような神々しさにしばらく見つめていた。

あの人はいつも何もせず何処かを見つめていて、寝ているときもあつた。気まぐれに腹筋のようなものをしてサークル室から出ていく。その繰り返しだったはずが……衝動的に追いかけた。

少し話したい、そう言った自分を連れてあの人が連れて来たのがこの公園だった。初めて聞く声に胸の高まりが止まらない。あの人は意外にも冗舌で自分はいくこく首を動かすことしか出来なかった。すきです！

座っていたベンチから立ち上がっていて、その時自分がとんでもない事を言ってしまったことに気がついた。あの人は突然のことに固まっていた。その日の帰りに繋いだ手の暖かさがむず痒かった。

次の日にサークル室へ行くといつも聞こえるカタカタの中、ヒソヒソと言う音が混じっている。あの人の姿は見えなくて、その日は逃げ帰った。あの人とはそれから話していない。教室移動の時に呼び止められても決して振り返らず、サークル室にいたら逃げるしか無かった。

——気持ち悪い。どこからその気持ちが来るのか自分でもわからなかった、確かにあの人のことが好きなのに。

あの公園から一週間後。サークル室でいつも使っている机にメモが置いてあった。別れよう、サークル室から冷たい視線が突き刺さる。一ヶ月経った今、私はあの日の公園に来て同じベンチに座っている。あの人が座っていた場所に手を触れた。そうか、自分は

(完)



『鈴型の空耳』

高校時代の友人との電話を切ると、私は耳からスマートフォンを離した。手が風鈴型のイヤリングに当たって涼やかな音が立つ。

意識を会話から周囲に引き戻すと、ちょうど日が見えなくなったところだった。けれど、暗くなるはずの街を、ネオンが代わりに照らしている。原色の光の下、チエックのシャツの二人組は笑い合い、スーツ姿は携帯に向かって話しかける。まるで、夜なんてなくなってしまうたかのよう。

幼い頃に過ごした家の周りでは、日が沈めば人工の音など時折車の排気音が薄く聞こえるだけだったのに。かすかに虫の音が響く闇の向こうには、作り話のほずの幽霊や妖怪がいるんじゃないかと、幼心には不安だったものだ。

人工の光で満たされたこの都会には、人ならざるものの気配なんてありはしない。いいや、一つだけあった。

「取り憑く歌声」

そんな言葉が、道行く女子高生たちの唇から漏れる。

確か、どこからともなく響くピアノの音を聞いた人が突然、誰かに取り憑かれたかのように人が変わってしまおうとかいう怪談だ。

けれど私にとっては、怖さよりも懐かしさを覚えさせる話だった。

七つの時のことだったか。近くに同年代の友達もおらず、広いだけの庭で一人遊びをしていた時に、鈴の音を聞いたのだ。どういうわけか、私はそれを声として認識した。

声に誘われて茂みを分け入ると、声の主は少し年下の少年だった。この辺りに、同年代の子どもは住んでいないはずなのに。

彼は言った。鈴の音は彼の言葉なのだ。このまま、風に流される音のように消えていくだけの。

だから私は耳をあげた。私とその声をずっと聞いてられるようにと。

深い理由も、意味もない。単に、「消える」なんて言葉の響きを見過ぎてせなかつただけだ。以来、私に鈴の音が聞こえる限り、私に聞こえる鈴の音の中にいる。例えば、遠くで幼稚園生が合奏の練習をする音の中に。

とはいえ、自分でも、本当にあつたことだと信じてはいない。昔見たアニメだか夢だかが、現実の記憶と混ざっているのだろう。もしこの記憶が現実だったなら、私はきつと幽世へと攫われてしまっていたはずだ。

けれど、ちょうどその頃なのだ。いつどこで買ったのかも覚えていない、七歳の子どもが付けるには早いイヤリングが、いつの間にか箆笥に大事そうに仕舞われていたのは。

ふと思った。

ピアノの声を聴いた人たちが憑かれていると言うのなら、私も鈴に取り憑かれているのだろうか。

気まぐれに、耳元の鈴型の飾りを鳴らしてみる。

変化はない。周囲の景色にも。私自身にも。

「やっぱり、何も起こらないじゃないか」

私の眩きは、車のクラクションと携帯ショップの客引きの声の間に溶けてなくなっていた。

(完)

『母のバナナ』

バナナがものすごく好きだった。なぜかはわからないが。私はバナナのフォルムが好きだった。ただし母は、そのフォルムを保ってはくれなかった。母の作るチョコバナナは奇怪だった。切り刻むのだ。母はバナナの皮を半面だけ剥いて、皮を下にし、まな板に置き、バナナを切っていった。ぐにゆりぐにゆり、と。バナナは切れる。物言わず。包丁に身を任せる。バナナは切り刻まれた。輪切りになって一五個ぐらいになった、一本のバナナ。そうすると、母は切れたバナナをつまんでクッキングシートが敷かれた皿に置く。重ならないように。母はすでにチョコレートを溶かしている。それは決まってガーナだった。母はチョコレートをすでに湯煎している。トロトロになったダークなチョコをバナナに垂らすのだ。まるで色を落とすみたいに。私は二十歳になった。二十歳になった私はバナナをチョコにディップすればいいと思った。でも当時だいたい四十歳だった母はしなかった。母は執拗にバナナにチョコを垂らし続けた。もちろんまだらになった。チョコがたくさんかかっているバナナと一滴しかかかっていないバナナが生まれてしまう。しかし母はそんなことお構いなしに、チョコレートをすべて垂らしきり、チョコレートが入っていたボウルを乱雑に洗面台にぶん投げてしまう。

それが母だ。そう、母はバイオレンスだ。その後母は、冷蔵庫の中からチョコレートスプレーを取り出す。いつも冷蔵庫の上の方にあつて、チューブわさびの隣にちよんまげを結つてたらずんでいる。母はそのちよんまげをほどくと、まだぎりぎり液体のチョコレートの上にさらさらとチョコスプレーを落としていく。母はこれだけはなぜか神経質で、すべての「バナナくん」に均等なチョコスプレーがかかるように尽力するのであった。それが終わると、バナナくんはラップをかけられ、冷蔵庫へ向かう。実はバナナくんはもう一人いた。妹の分だ。バナナくんはたぶん二時間ぐらい冷やされる。何も知らなかった私は、何も知らずに冷蔵庫を開けた。バナナくんがいた。とてもうれしかった。だけどバナナくんはまだ柔らかかった。バナナくんはできる限り力チカチでなくてはならない。そのためには二時間の冷蔵が必須なのだ。私はバナナくんを見つけた喜びと、バナナくんを見つけたがすぐには食べられない悲しみを同時に抱えながら冷蔵庫を閉める。バナナくんが冷蔵庫にいる喜び。それはバナナくんが冷蔵庫にいる喜びをもってしか表現できない喜びだ。母はわからなかった。私にとつて母はわからない存在だった。母は機嫌が悪くなると私に向かつて思いつき椅子を投げたし、私を無視した。たまに机を全力で殴るし、浴槽を掃除しながら叫ぶ。しかし私にとつて母は母であるしかなかった。

バナナくんを食べた。どう頑張っても一口ずつ食べざるを得ないバナナくん。冷たくなったバナナともっと冷たくてかたいチョコレート。そしてチョコスプレー。ダークなチョコとチョコスプレーは全く異なるものである。口の中で徐々に溶けていくチョコとつるつるしたコーティングが丁寧に施されたビビットカラーのチョコスプレー。それをバナナのぐにやぐにやで統一したあとに広がるあまみ。バナナくんを食べて涙がでそうになったことは、ある。それがバナナくんのせいなのかは、わからない。クッキングシートに垂れたチョコをフォークでかき取って口に放り込むまでが、私とバナナくんとの日々だ。かんぺきにクッキングシートがきれいになったら、それを慎重に三回折って小さな四角をつくる。そしてそれを押しさえ込むようにしてフォークを置き、それを母のいる台所にもっていく。母はバナナくんをつくると、必ず韓国ドラマを見た。それは、いつも生卵を投げつけられるシーンだった記憶がある。私は韓国ドラマの復讐劇に夢中になっている母親に、おいしかったよ、と言いつつ、すぐに台所を離れるのだった。

母はいるが、バナナくんはもう現れない。今。この先もきつとそうだろう。しかし、母が作ってくれるバナナくんは、たしかにそこに存在していた。

(完)

「ちょっと一息」の お供な一冊

「今回の企画では、「コーヒーと一緒に楽しみたい本」「移動を楽しくする本」の2つをテーマに、軽く楽しむことができるライトな本を計8冊選びました。3限が終わって一息つく休憩時間、一日授業を受けたあとの帰宅途中、日常のちょっとした時間を彩る素敵な本たちをお楽しみください！」

〈コーヒーと一緒に読みたい本、カフェで読みたい本〉

① 『26文字のラブレター』

遊泳舎 編 いとうあつき 絵
発行 遊泳舎



七・七・七・五の26音からなる都都逸。都都逸は江戸末期から明治時代にかけて盛んに詠まれてきました。そんな数ある都都逸の中から選び抜かれた60節もの恋の唄を美しいイラストと共に楽しむことができる一冊です。ときにショートケーキのように甘酸っぱく、ときにコーヒーのように苦い。たった26文字で紡がれた、心ときめく愛の言葉の数々をぜひ素敵なティータイムと共に。

② 『卵の緒』

瀬尾まいこ 著
発行 新潮社



『そして、バトンは渡された』で2019年本屋大賞を受賞した瀬尾まいこさんのデビュー作。

表題である「卵の緒」と「7's blood」、二つの短篇が収録されています。血のつながりだけが全てじゃない、確かな絆で結ばれた優しい家族の物語に心あたたまること間違いなし！

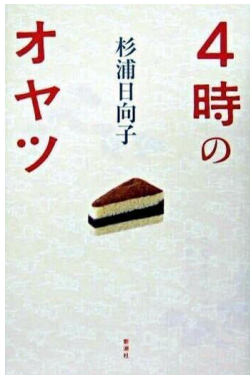
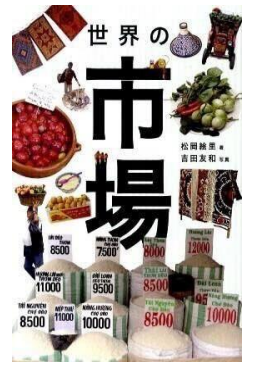
穏やかな時間を過ごしたい春の午後におすすめしたい一冊です。



③ 『世界の市場』

著：松岡絵里 発行：国書刊行会

世界各国の市場を詰め込んだ一冊。新鮮な食材や可愛い民芸品、スパイス香る屋台メシ、ひいては魔女御用達のお店まで、古今東西あらゆる市場が目白押し！たっぷりの写真と地図で、コーヒー片手に旅行気分を味わってみては？



④ 『4時のおやつ』

著：杉浦日向子 発行：新潮文庫

「4時。夜明け前。黄昏れ時。美味しい時間。」

午前でも午後でも、3時や5時より中途半端な「4時」。オヤツと共にある会話を描いた33の短編小説です。自然で何気なくて絶妙な、ちょっとレトロな日常を覗いてみるのはいかがでしょうか。



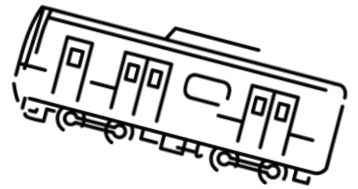
⑤ 『残るは食欲』

著：阿川佐和子 発行：新潮文庫

雑誌「クロワッサン」での連載をまとめた食エッセイ集です。幼いころ家族と食べていた食事から、一人で作って一人で食べて一人で「私は天才かっ」と叫ぶ大人になるまで、おいしい日常が一挙に集結。飯テロエッセイ、是非ご賞味あれ！



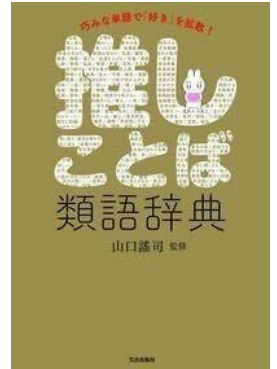
〈移動を楽しくする本〉



① 『推しことば類語辞典』

山口謠司 監修 じじい マンガ・イラスト
発行 笠倉出版社

皆さんに「推し」はいますか？「推しの魅力を語ろうとするとどうしても語彙力が低下してしまう！」「推しの魅力はこんな単純な言葉で言い表せるものではないのに！」そう思ったことはないでしょうか。好き、きれい、すごい、最高、推しへの想いを表すときに使いがちな言葉の類語を集めた辞典です。短い時間で少しだけ気持ちの解像度が上がる、そんな一冊。



② 『チーズケーキ本』 発行 旺文社

東京のカフェを中心に、お土産やチェーン店、コンビニまで網羅したチーズケーキガイドブック。普段何気なく使っている沿線沿いにも、きっと気になるお店が見つかるはず！時間に余裕がある、急に予定が空いた、一息つきたい。そんな日はチーズケーキを食べに、いつもの帰り道を途中下車して寄り道してみませんか？

③ 『なにごともなく、晴天』

著：吉田篤弘 発行：平凡社

高架下商店街に暮らすB子の多少の事件はあれど、なにごともないささやかな日常を描いた短編集。物語を「読む」というよりも、あたたかくて爽やかな世界に「入る」「浸る」ような体験ができる一冊です。

なにごともなく、晴天。
吉田篤弘



④ 『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』

著：福井県立図書館 発行：講談社

司書さんが図書館で実際に会った覚え違いをまとめた一冊。「カフカの『ヘンタイ』はある？」「『ぶるる』みたいな旅行ガイドは？」など、惜しい！けど共感してなごめる覚え違いのバーゲンセール！

司書が調査・研究をお手伝いするレファレンスサービスは、法政大学図書館でも受けられます。困ったら図書館1階のレファレンスカウンターも使ってみては？

近隣の読書オススメ スポット

「隙間時間読書のすすめ」

「時間割の中に空きコマがある方は結構多いのではないのでしょうか。友達と話したり、ご飯を食べたり、課題をやったり...空きコマにはさまざまな過ごし方がありますね。今回の企画では、そんな空きコマの間に読書をして過ごしやすいおすすめスポットをご紹介します！」

① 近隣図書館

- ・新宿区立中町図書館
 - ・千代田区立四番町図書館
 - ・千代田区立千代田図書館
- 「いずれも大学から徒歩で行くことが可能な図書館です。たまには気分を変えて、散歩しながら地域の図書館に行ってみるのも◎」

② 校内で読書をするのにおすすめの場所

- ・富士見ゲート3階 「つどひ」 テラス席
 - ・富士見ゲート6階 「富士見屋上庭園」
- 「いずれも気候が落ち着いた晴れの日におすすめ。穏やかな時間を過ごすことができます。」
- ・「市ヶ谷図書館」
- 「本といえばやはりここ！閲覧スペースが多数あり、静かな空間で落ち着いて読書を楽しむことができます。」

③ その他

- ・「靖国神社」
 - ・「外濠公園」
- 「靖国神社と外濠公園では、毎年4月頃になると満開の桜を見ることができます。日差しがあたたかい春の日は、お花見をしながら読書してみませんか？」
- ・「神楽坂」
- 「神楽坂周辺には、ほっと一息つくことができるカフェがたくさん！お気に入りの文庫本を持って、コーヒーを飲んでみるのもいいかもしれません。」

カフェレポート

「Cafe 1869 by MARUZEN」へ 行ってきました！

神楽坂以外にも、読書におすすめなカフェは多数。今回は学校から少しだけ遠出した、東京丸の内にあるとあるカフェをご紹介します

店名 :Café 1869 by MARUZEN

最寄り駅：JR 東京駅、丸の内東京駅、
東西線大手町駅

住所:東京都千代田区丸の内1丁目 6-4
丸の内 オアゾ 3階

休業日：元旦 ほかに不定休

営業時間: 9時～21時

法政大学から東西線飯田橋駅を利用して約20分！丸の内にある、丸善本店に併設されたカフェです。丸善で本を購入した際はぜひ訪れてみてはいかがでしょうか？

「丸善といえば...!」 or
「読んでほしい1冊」

→ 『檸檬』

著 梶井基次郎
発行 KADOKAWA



([Café 1869 丸の内店](#) | [クレア公式サイト \(clea.co.jp\)](#))

([檸檬 角川文庫: 梶井基次郎](#))
[HMV&BOOKS online - 9784041008386](#))

「これからの新定番？電子ブックを使ってみよう！」

「図書館の本って、借りた後家まで持って帰らないといけないから面倒…」

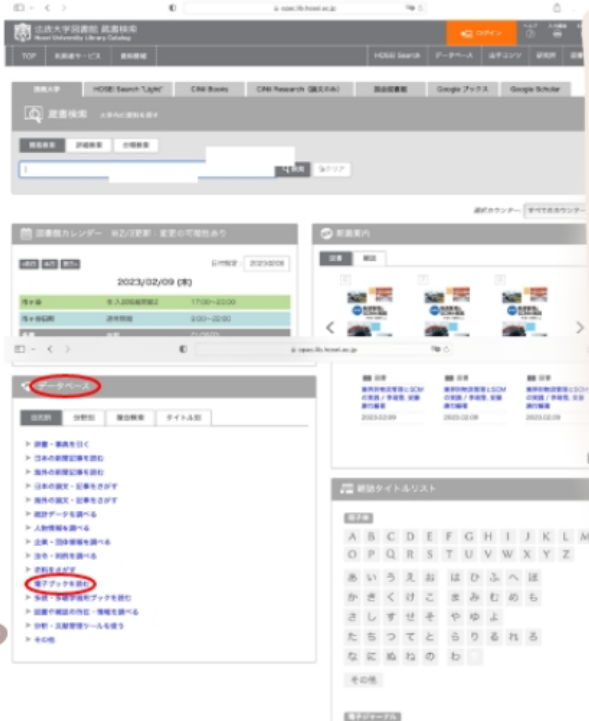
そう思っているそのアナタ！法政大学市ヶ谷図書館にはオンラインデータベースや電子ブックといった電子の資料も数多く所蔵されており、誰でも簡単に利用することができます！この記事では電子ブックの（意外と）簡単な利用方法をご紹介します。

1. 電子ブックの利用方法

電子ブックとは、「一般的にWeb上で表示可能な電子冊子※1」を指し、法政大学ではKinoDen、Maruzen eBook Library、ProQuest Ebook Centralの3種類などの電子ブック提供サイトが利用可能です。

実際の操作手順

- ① VPN(AnyConnect)接続をオンにし、法政大学図書館のホームページにアクセスします。(VPN接続の仕方は法政大学市ヶ谷情報センターのお知らせを参照してください
→URL <https://hic.ws.hosei.ac.jp/network/vpn>)
- ② 法政大学図書館OPAC(https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_search/?lang=0)にアクセスしてログインします。
- ③ 「データベース」から「電子ブックを読む」をクリックします。



法政大学図書館OPACの画面です。これを下にスクロールすると、「データベース」「電子ブックを読む」というメニューが登場します。

- ④ 使いたい電子ブックにアクセスします。

2.おすすめの電子ブックサイト紹介

①KinoDen(キノデン)

紀伊国屋書店が提供する学術和書電子図書館サービスです。トップページに「新着案内」「よくアクセスされている電子書籍」などのテーマに沿った書籍紹介があり、何を読むか未定の状態でも自分の興味に合った書籍を探しやすくなっています。韓国語や中国語など第二外国語の『キクタン』やTOEIC対策本といった語学学習向けの本も閲覧可能です。アプリを利用することで付箋機能などの便利な機能も利用できます。

☆おすすめ本

『見てわかる、迷わず決まる配色アイデア 3色だけでセンスのいい色』(著：ingectar-e, 出版社：インプレス, 出版年：2020)

たった3色でも資料のデザインがパッと決まる配色をマカロンの形で可愛らしく紹介した一冊です。紙媒体でも用意されているものの貸出中のことが多く、なかなか手元の届かない人気図書の一つでもあります。プレゼンのスライド作りが苦痛で仕方ない！そんな時にぜひ参考にしてみてください。

②Maruzen eBook Library

丸善雄松堂によって運営されている電子書籍サイトです。詳細検索画面からは「人文科学」や「哲学」などのジャンル検索が可能で、レポート制作時には心強い味方となるでしょう。おすすめ本コーナーには『地球の歩き方』シリーズがずらりと並んでいます。

☆おすすめ本

『10代のための疲れた心がラクになる本 - 「敏感すぎる」「傷つきやすい」自分を好きになる方法-』(著：長沼睦雄, 出版社：誠文堂新光社, 発行年：2019)

昨年に引き続きトップページで紹介されている図書です。生活や人間関係に疲れていると感じる読者に対して、その疲れがどうして生じるのかと言ったメカニズムを説明し、どうすればその疲れが改善されるのかを知識編と実践編に分けてまとめています。目次ごとに読むこともでき、気になる章から読むことも可能です。

これらのサービスが使えるのは大学に在学している間だけ！ぜひ様々な電子ブックサイトを覗き、自身の読書経験に生かしてみてください！

参考文献

※1 電子書籍とはhttps://w1582943804-nvc464526.slack.com/files/U03KPPE6S4T/F050FN6L336/img_0128.png



活動記録



4月

- ・図書館だより発行
- ・新入生歓迎会
- ・オンライン読書会体験イベント
- ・表紙で当てろ！小説クイズ！

5月, 6月

- ・前期選書ツアー

7月, 8月, 9月

- ・図書館とのコラボ企画「開架展示『図書館スタッフ・ライサポのおすすめ本』」

10月

- ・教科書リユース！
- ・図書館とのコラボ企画「2022年度 図書館職員業務体験」
- ・後期選書ツアー

11月

- ・学祭ビブリオバトル
- ・学祭朗読会
- ・図書館とのコラボ企画「シェア本棚」

12月

- ・図書館とのコラボ企画「2022年度 本の福袋」

1月, 2月, 3月

- ・Twitter本みくじと定期本紹介



法政大学市ヶ谷図書館ライブラリーサポーターは学生の視点から図書館の運営を手助けする学生ボランティアです。私達は多くの学生がよりよく図書館を利用できるように活動しています。詳しくは下記QRコードから。

(ライサポー同)

募集対象：市ヶ谷キャンパスの学部生、院生、通信教育学部生

お問い合わせ：市ヶ谷図書館B1レファレンスカウンター TEL03-3264-9515

